

「平成11年度における宇宙開発関係経費の見積り方針」（案）について

平成10年8月5日

宇宙開発委員会事務局

1. 「見積り方針」とは

- ・「見積り方針」は、我が国の宇宙開発を国全体として計画的、効率的に進めるため、各省庁の宇宙開発に関する要望を宇宙開発委員会が調査・審議の上、各省庁の平成11年度予算要求の具体的方向性を示すもの。
- ・各省庁は本方針に基づき予算要求を固め、これを踏まえ宇宙開発委員会は8月末に「見積り」を決定する。

2. 平成11年度の見積り方針（案）

- ・平成11年度の見積り方針（案）では、宇宙開発政策大綱（平成8年1月改訂）に示された考え方を着実に具体化するため、所要のプロジェクトを実施することとしている。（主なプロジェクトは別紙参照）

3. 関連スケジュール（予定）

- 8月 5日（水） 「平成11年度における宇宙開発関係経費の見積り方針」を宇宙開発委員会が決定、関係各機関へ通知。
- 8月26日（水） 関係各機関の宇宙開発関係経費を^{→を踏まえ！}集計し、「平成11年度における宇宙開発関係経費の見積り」を宇宙開発委員会が決定。
- 8月31日（月） 各省庁から大蔵省に対し予算要求。

主なプロジェクト

1. 開発にフェーズアップするもの

プロジェクト名	打上げ	概要
月周回衛星（SELENE）の開発 （科技庁、文部省）	平成15年度 H-IIA	将来の宇宙活動に不可欠な月の利用可能性調査のデータ取得、基盤技術の開発、月の科学の発展を図ることを目的とし、月の表面構造・組成の全球的調査、月重力場等の計測及び月面着陸技術実証を行う衛星。
第22号科学衛星（SOLAR-B）の開発 （文部省）	平成15年度 M-V	太陽大気（コロナと彩層）の成因とフレアなどの太陽活動の原因を解明することを目的とし、太陽表面の微細磁場構造とその運動を高精度で観測する衛星。

2. 打上げ年度の変更

プロジェクト名	打上げ年度（旧）	打上げ年度（新）
環境観測技術衛星（ADEOS-II）	平成11年度	平成12年度
第17号科学衛星（LUNAR-A）	平成10年度	平成11年度
次世代型無人宇宙実験システム（USERS）	平成12年度	平成13年度
ライダ実証衛星（MDS-2）	平成12年度	平成13年度
宇宙往還技術試験機（HOPE-X）	平成12年度	平成15年度
国際宇宙ステーションの日本実験棟（JEM）	平成13年度	平成13、 14年度
宇宙ステーション補給システム技術実証機	平成13年度	平成14年度

3. 既存の計画に事前実証等を追加するもの

プロジェクト名	打上げ	事前実証等の概要
宇宙往還技術試験機（HOPE-X） （科技庁）	平成15年度 H-IIA	我が国初の往還技術試験を確実に実施するため、平成13年度に高速飛行実証機による飛行実験を行い、その成果をHOPE-Xの開発に反映。
技術試験衛星VIII型（ETS-VIII） （科技庁）	平成14年度 H-IIA	ETS-VIIIの大型展開アンテナの展開信頼性の向上を目的とし、H-IIAロケット1号機により平成11年度に小型・部分モデルを打ち上げ、展開実験を実施。

4. その他

・小型衛星（50kg級）及び鯨生態観測衛星（WEOS）を環境観測技術衛星（ADEOS-II）と相乗りで打上げ（平成12年度、H-IIAロケット2号機）。

打上げ機／年度	平成 7	平成 8	平成 9	平成 1 0	平成 1 1	平成 1 2	平成 1 3	平成 1 4	平成 1 5
M-V ロケット [低軌道に 約 1・8 t]		▲第16号科学衛星 (MUSES・B) 「はるか」		▲第18号科学衛星 (PLANET・B) 「のぞみ」	△第19号科学衛星 (ASTRO・E) △第17号科学衛星 (LUNAR・A)		△第20号科学衛星 (MUSES・C)	△第21号科学衛星 (ASTRO・F)	△第22号科学衛星 (SOLAR・B)
H-II ロケット [静止軌道に 約 2 t]		[注1] ▲地球観測プラットフォーム技術衛星 (ADEOS) 「みどり」	▲通信放送技術衛星 (COMETS) 「かけはし」 [注2] ▲熱帯降雨観測衛星 (TRMM) 技術試験衛星Ⅶ型 (ETS・Ⅶ)一 「きく7号」		△運輸多目的衛星 (MTSAT)	[注2] データ中継技術衛星 △(DRTS・W) 民生部品コンポーネ ント実証衛星 (MDS・1)			
H-II A ロケット [静止軌道に 約 2～3 t]					[注3] △先端型データ中継 技術衛星 (ARTEMIS)	[注4] △環境観測技術衛星 (ADEOS・Ⅱ)	△次世代無人宇宙実験 システム (USERS)	△技術試験衛星Ⅷ型 (ETS・Ⅷ) △陸域観測技術衛星 (ALOS) △データ中継技術衛星 (DRTS・E) △宇宙ステーション補 給システム	△宇宙往還技術試験機 (HOPE・X) △月周回衛星 (SELENE)
J-I ロケット [低軌道に 約 1 t]	▲J-I性能確認 極超音速飛行実験 (HYFLEX)	注1 アマチュア衛星(JAS-2)ふじ3号同時打上げ 注2 同時打上げ 注3 欧州宇宙機関ESAの衛星 注4 小型衛星及び鯨生態観測衛星(WEOS)同時打上げ 注5 打上げロケット未定				△光衛星間通信実験衛 星(OICETS)			
そ の 他 [一ル捨ッ ペトイケ スヤ使ロ 国シは型 米ス又てト]	▲宇宙実験・観測フリ ーフライヤ(SFU) の回収	▲高エネルギー・トラ ンジェント宇宙放射 線観測衛星 (HETE) [X線観測装置]		[極軌道プラットフォーム1号 (EOS・AM1) 資源探査用将来型 センサ (ASTER)]	△高エネルギー・トラ ンジェント宇宙放射 線観測衛星 (HETE) [X線観測装置]	△極軌道プラットフォーム (EOS・PM1) 改良型高性能マイ クロ波放射計 (AMSR・E)	△生命科学実験施設 (生命科学グローブ ボックス) [注5] △ライダ実証衛星 (MDS・2)	△宇宙ステーション棟 の実験 (JEM)	△生命科学実験施設 (人工重力発生装置 搭載棟)